



てんじん

連携ニュース

独立行政法人
国立病院機構甲府病院
（山梨県甲府市天神町1-1-13）
発行責任者
院長 長沼博文

2006年1月1日発行
第1号

<http://www.hosp.go.jp/kofu/>



新年のご挨拶

病院長 長沼 博文

新年あけましておめでとうござい
ます。私は、前任の野見山院長から
バトンタッチを受け、平成十七年八
月一日より院長として働いております。
私は、生まれは長野県飯田市、
出身大学は群馬大学で、山梨医科大学
脳神経外科の新設に伴い、昭和五
十九年に山梨県に赴任しました。最
初は山梨県立中央病院に二年間勤務
し、その後山梨医科大学に移りまし
た。もう山梨県に来てかれこれ二十
年が過ぎ、ほとんど山梨県人のつも
りでいます。

本病院の特色は、重症心身障害、
結核の患者さんの脳診療を行っている
ことで、国の医療政策として担う
べき医療（政策医療）にあたります。
もう一つの特色は、新生児集中治療
室（NICU: neonatal intensive care
unit）があり小児科医と産婦人科医
が連携して治療にあたり、県より地
域周産期母子医療センターの指定を
受けています。本年一月から、二階
病棟を周産期医療センターとする事
に致しました。産婦人科はハイリス
ク妊婦も扱っており、出産件数は近
年増加し十七年度は七百件位となる

見込みです。その他、一般診療として、
内科、消化器科、外科、整形外科、
眼科、泌尿器科、耳鼻咽喉科、脳神
経外科があり、輪番制の二次救急を
小児救急も含め担当しています。私
は脳神経外科医ですので、昨年九月
から脳神経外科の外来を担当してお
ります。現在はまだ外来診療だけで
すが、近いうちに脳神経外科の入院
診療も行うようにしたいと思ってい
ます。

現在、診療施設に求められている
のは、良質で効率の良い医療の提供
です。職員の研修を適宜行うことに
より、医師を含めた職員の質を高め
ることは重要な課題です。患者さん
の満足を得られるような医療の提供
が重要な課題ですが、同時に職員の
満足が得られるような体制作りも大
切であると思っています。

病棟連携及び病診連携についても
緊密に行ってゆく所存です。現在も
多くの患者さんを紹介して頂いてお
りますが、紹介して頂くだけではな
くご紹介も重要な課題であると考え
ています。今後、双方向性の連携
に取り組んでいきたいと思っています。

診療科紹介



当院産婦人科の特徴

産婦人科医長 伊東 敬之

当院ではこの平成十八年一月より周産期センターを設置し、周産期医療のよりいっそうの強化を行っていきます。小児科、新生児集中治療室（NICU）の協力のもと、早産低出生体重児に対応した分娩が可能であり、山梨県全県からの母体搬送依頼や紹介依頼があります。これまでほぼ一〇〇%受け入れており、分娩される方は山梨県内各地より通院されています。

画像のビデオ録画を実施しています。合併症妊婦、ハイリスク妊婦に対しては他診療科との連携のもと、嚴重な周産期管理を行っております。また、助産師による妊娠分娩に関する相談・指導を外来、入院中等におこなっており、分娩後は母児同室と母乳育児の推進を行っております。予約制で母親学級も実施し、立ち会い出産も受け入れております。（希望される場合には後期の母親学級を受診されることが必要です。）

帝王切開の既往がある場合、可能な限り経膈分娩を行うこと（VBAC）を第一選択とする方針をとっています。前回の帝王切開時の状況や、子宮破裂を含め母児に危険がせまった場合には帝王切開が第一選択となります。

骨盤位の分娩に関しては、当院では外回転術を第一選択とし、頭位にもどらなければ原則的に帝王切開を行なう方針をとっています。

ただし骨盤位経膈分娩を希望される場合には三十六〜三十七週に骨盤計測を行い、経膈分娩が可能であると判断されたときは、その後外来にて嚴重に経過観察した上で経膈分娩を行なうようにしております。

婦人科の特徴

卵巣嚢腫・子宮筋腫・子宮内膜症などの良性疾患の治療（開腹手術・腹腔鏡

下手術）から子宮頸癌・子宮体癌・卵巣癌などの悪性疾患の治療（手術療法・化学療法）、さらに不妊症・更年期障害などの治療（ホルモン療法・漢方療法等）と幅広く対応しております。

周産期診療の特徴

妊婦健診では全例超音波診断を実施し希望者には超音波

外来診療は予約制でおこなっております。

帝王切開の既往がある場合、可能な限り経膈分娩を行うこと（VBAC）を第一選択とする方針をとっています。前

回の帝王切開時の状況や、子宮破裂を含め母児に危険がせまった場合には帝王切開が第一選択となります。



部門紹介



二病棟のご紹介

二病棟看護師長 桜井かおり

当病棟は、産科とNICUを含む未熟児室からなる周産期の病棟です。山梨県内の病院・

医院からの新生児搬送や母体搬送が、二十四時間いつでもあります。



産科三名、小児科五名の医師がいます。看護者は助産師・看護師・看護助手も含め四十七名という大勢のスタッフが三交替で看護をしています。看護者が多いので、医師達は、なかなか看護師の顔と名前を一致させるのに、苦労をしているようです。産科は分娩や帝王切開で出産した母親とその新生児

はもちろんの事、切迫流産・早産や多胎妊娠等のハイリスク妊婦が入院しています。

分娩は夫立会い分娩を導入しています。希望者は両親学級を受講の上、妻だけの分娩でなく、夫も出産に参加する事で、夫婦で分娩を乗り切り、より満足な出産ができる様に関わっています。昨年は約六〇〇件の分娩中二十五%が夫立会い分娩をしています。

産後は二十四時間母子同室制をとり、育児技術の習得とよりよい母子関係が築けるように援助しています。

未熟児室は六床のNICUと二十四床のGCUからなり、二十四時間の全身状態の管理と看護を行なっています。一〇〇g未満の超未熟児をはじめとした低出生体重児の入院から、一過性多呼吸や新生児感染症などの疾患で入院して来ます。年間二〇〇人以上の入院があります。

未熟児室の面会は二十四時間可能（両親のみ）とし、い



つても面会にこられる環境を整えています。また、カンガルーケアを導入し、母子・父子間の愛着形成が築けるように関わっています。更に、退院が近づいた患児には日中保育や一泊保育を勧め、育児指導を行なっています。

病院の政策医療の一つである、生育医療を担っている病棟で、日夜、医師と看護師が協力して、患者さまのために頑張っています。

外 来 診 療 担 当 表

平成17年12月1日現在		月	火	水	木	金
内 科	1	渡 邊	渡 邊	渡 邊	渡 邊	渡 邊
	2	黒 澤	黒 澤	黒 澤		黒 澤
	3		尾 畑	高 木	中 尾	高 木
	4	高 崎	高 崎		高 崎	
	5				前 田	
脳神経外科	5		長 沼			長 沼
特 殊 外 来 <small>午後3:00~</small>		高 木		高 崎		高 崎
神 經 科			平 野・塩 江			
消 化 器 科		河 口	角 田	橋 爪	角 田	河 口
小 児 科	1	久 富	稲 見	久 富	久 富	稲 見
	2	島 村	鈴 木	宗 像	島 村	鈴 木
	3	畠 山	中 根	中 村	畠 山	神 谷
	3	中 村	畠 山	神 谷		中 根
					休診中	
外 科		橋 爪	橋 爪	船 津	鈴 木	角 田
整 形 外 科	1	萩 野	戸野塚	戸野塚	萩 野	萩 野
	2	戸野塚	落 合	落 合	落 合	戸野塚
泌 尿 器 科		相 川	相 川	相 川	相 川	相 川
産 婦 人 科	1	深 田	深 田	高 木	深 田	深 田
	2	伊 東	高 木	伊 東	伊 東	高 木
眼 科		古 市	古 市	古 市	手術日	古 市
耳 鼻 咽 喉 科					矢 崎	

※乳児健診(小児科) 毎週 火・木曜日 (完全予約制)

※予防接種(小児科) 毎週 水曜日 (完全予約制)

※人間ドック 毎週 月・木 (完全予約制)

脳ドック 毎週 火・金 (完全予約制)

※高齢者検診 毎週 火・木 (完全予約制)

※結核検診 毎週 月・水・金 14時から16時

※毎月第4金曜日 黒澤医師 糖尿病教室

編集後記

今月より、当院既刊誌「ひまわり」に地域医療連携情報を掲載し「てんじん」としてリニューアルいたしました。今後共、ご愛読の程よろしくお願ひ申し上げます。



医療連携室長
(内科系診療部長)
渡邊 吉康



医療連携係長
(医事専門職)
山下部 広治



医療連携係員
平野 のぞみ
医療連携室直通電話
TEL 055-240-6223
FAX 055-240-6225

医療連携室のスタッフは私たち三人です。よろしくお願ひ致します。

医療連携室スタッフの紹介